

ソツモカ○カマルキ○カマヒヲハ○
 ヌシロン○モク○シヨ子モリガヒニ
 ホ○ハクメハイ○シシロアモリガ○
 イラスメ アモリガ○ニメクハウ

お恨
 ちねの
 珠

本
 屋
 宛
 買



午存十二時五分發

大正十一年四月贈

414
 A 263
 530



ガフナゲケモコタルスへハヨイミホ

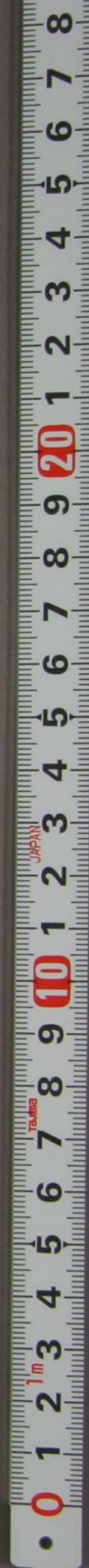
ラミンボルキケホ

電信写

太平八日鹿兒島入港番兵附ケラレ木梨少
 丞殿ヨリ大山殿へ筆談ニ及ヒ返答ナレ十六
 日大山殿ヨリ木梨殿ヲ呼ブ人テ般ノ事件
 朝廷へ御届ケ托サレ十七日田村廣瀬ヲ
 木梨呼ヒ右ノ事演舌アリ太平ハ右ノ
 飛脚船ニナリテ十九日出帆セリ郵便局モ
 閉局シ折田殿ハ長崎肥後兵庫鎮臺
 縣廳へ使節ニナリ十四日都合二十名各縣
 へ出タ由

田村廣瀬ハ
本船後復也

折田ハ郵便局
後復也ト聞



十五日ヨリ十七日迄壹万四千人押出し肥後
へ着しタル由此ノ人数出タ由テ太平歸へり
夕大山木梨ニ公ノ御働キト聞ク西郷桐野
篠原、殿ガリノ由一卷今郵便テ御名アテ出
シマス右御下向ニ付キ上申

ゴヨウズミニツキ コンニチ ナガサキ
ニムトキ キホツス コノダン ヲトケ
ヲヨブ

孫 大友
考 大友

きあむ

大伴 大友





田中此書の旨を副読の要報に与

先口以来長崎へ代ホ運輸船隻艘差甚ハセシ
ニ多波地ニテモ必用故差甚ハル付島地ハ東西
之運輸船忽チ缺ク及ヒ頗ル困却之場を戦
地ハ陸軍人ニシテ運送地ハ強ク業之ニ係リ方ホ追
及チ其不都合不少此上多波之船船ヲ要シ付
此際運輸方支ヘザル損盡力一の致者ニ其甚
多ク社ノ前モリ有達ハル世ハ社ノ困之船モ最
早ク世之由ニ付カ商人持之海船ハ勿論川甚
第ニ多ルマニ在り上毎用務ハ長比不望也
之破船ニシテ急ニ付至急望出ハル船ニ
禮四ノ入ニカニ付三社甚多社、之達有ハル西
海ニ上申ヤリタニ尤多急ニ其議之極極承リ交シ



